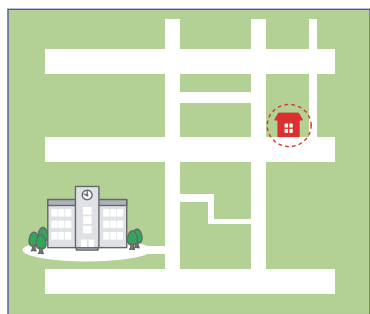


# 浸水ひなん地図の活用

ご自宅などが浸水するおそれのある区域でないか、浸水ひなん地図で確認しましょう。  
また、避難指示(緊急)・避難勧告が発令されたときスムーズに避難できるように、避難場所の位置と避難経路を確認しておきましょう。

## ①ご自宅などの位置に印をつけましょう

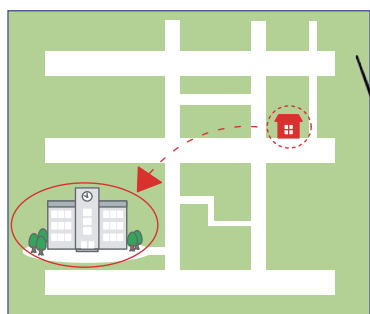


浸水ひなん地図 (P.9～18) のご自宅などの位置に印をつけ、周辺の浸水箇所や深さを確認しましょう。

同様に職場や学校、通勤・通学ルートでも浸水状況を確認しましょう。

より大きな雨に備えるために、洪水ひなん地図(洪水ハザードマップ:P.23～24)も準備して、洪水(外水はん濫)のときの浸水状況を確認しましょう。

## ②自分たちの避難場所に印をつけましょう

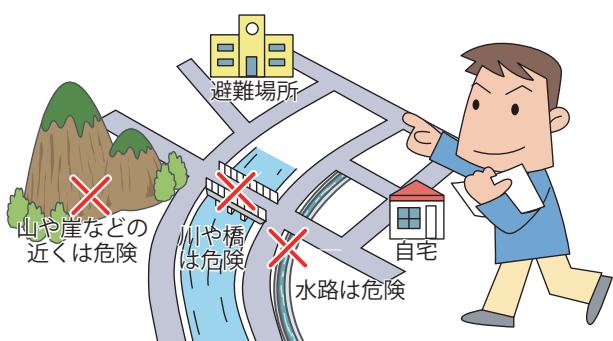


**内水はん濫では、浸水の深さが浅いため建物の2階以上へ避難しましょう。**

ただし、より大きな雨が降り続いた場合には、河川の堤防の決壊や河川からあふれた水による洪水(外水はん濫)が発生するおそれがあります。

自分たちの避難場所に印を付けて避難経路を確認しましょう。

## ③実際に避難経路を歩いてみて安全か確認しましょう



避難経路を実際に歩いて、避難にかかる時間や地形(階段や地形変化など)を確認しましょう。

夜間の災害発生も想定し、安全に気を付けながら実際に歩いてみましょう。

浸水をイメージし、安全な避難が行えるように準備しましょう。

## ④地域で協力して、より良い浸水ひなん地図にしましょう



日ごろから地域で災害や避難について話し合い、情報を共有しましょう。高齢者など、避難に支援が必要と思われる方について、地域で考え、皆さんの安全が確保できるようにしましょう。